

狂犬病撲滅に對し女性、立場より当局へお願い

私達都氏は絶えず新聞紙上。狂犬病発生。報道におびや
なれという状態にあります。私達女性には母として幼い子供が

通学途中、或は路上で一刻も安心出来ないのであります。

一方犬は愛玩。遊び相手であり主人の趣味の対象として或は遊樂場等の危険
飼われるのであります。毎日餌をやり運動させ掃除するのは主目的の役
目でありませう。この爲に女性、犬に最も関係が深いと言えませう。

然るに今度出来た狂犬病予防法は全く女性の立場を無視して單に
保健所や当局の力による予防を行つた様な結果になつてしまつてゐる。

もと私達の言を聞き、協力を得るのことが出来ないのである。

お願いした事は種々ありますが、今回お願いしたいのは犬の屠殺
限のゆるぎです。一頭一人宛にせよ、又向うをえ、入口の鎖

加た悩んでいる今日犬は一年に二回一回教頭を度み、私達も生まれ
る度に必ずに苦勞する次第です。

都内二十万頭も犬がいるところ、半教犬として一年五頭宛
度みる一年百万頭も出来、大部余り不要となり、この犬に
なるわけです。

それで此犬の避妊手術を行ふのは一頭三千円もかかります。
之を到底一般への普及は出来ません。新聞紙上にもま

すと犬の抑留所、この種の研究中の種、何時実
施の運びになるか甚だに細い次第です。

当局は確固たる研究機関を作り度やかと女性も研究さん。
保健所等は一頭二―三百円で手軽に安全に実行出来る様に
特にお願い致します。

昭和二十七年八月十八

請願者

東京都三鷹市牛乳五八

三木 博子

若川 かた子